



—地中海・北アフリカ地域ニュース—

チュニジア：イスラーム的マグリブのアル=カーイダが内相宅襲撃事件の犯行声明を発表

6月13日（日本時間）、インターネットの掲示板サイトで「イスラーム的マグリブのアル=カーイダ」がチュニジアのベン・ジッドゥー内相宅襲撃事件の犯行声明（1日付）を発表した。この事件は、5月28日にチュニジア西部のカスリーン県でベン・ジッドゥー内相の自宅が襲撃され、警備員が殺傷された事件である。

声明は、ベン・アリ政権放逐後に発足したチュニジアの新体制がイスラーム統治の実現やイスラームの教宣のために行動するのではなく、従来どおりイスラームの抑圧・弾圧政策を続けていることを非難した。特に、チュニジア政府がシャアーニビー山地で掃討作戦を行っていること、「アンサール・シャリーア」をテロ組織に指定したこと、「結婚ジハード」（注：アラブ諸国を中心にイスラーム世界の女性がシリアに潜入し、イスラーム過激派戦闘員に性的に奉仕する行為のこと。一般的なイスラーム解釈では容認されない行為である。）に参加したチュニジア人女性を摘発したことを挙げ、同政府の政策を非難した。

考察

今般の声明で注目すべき点は、2点ある。第一は、「イスラーム的マグリブのアル=カーイダ」がチュニジアで作戦行動を行い、それを発表することは極めてまれだという点である。同派がチュニジア領内での作戦行動について広報を行うのは、2008年にオーストリア人観光客を誘拐した事件など、ごく小数に限られている。同種の攻撃や広報が繰り返される場合、「イスラーム的マグリブのアル=カーイダ」がチュニジアでの活動を本格化させたことを意味するため、警戒が必要である。

第二の注目点は、声明で「アラブの春」によって発足した新体制への不満・非難が明確に示されている点である。これまで同派は、マグリブ諸国での抗議行動・政権放逐運動を歓迎し、十字軍の排除やイスラーム統治の実現のために連携を期待するような態度を表明してきた。このため、今まではチュニジアやリビアの政治情勢について論評したり、自派の活動について広報したりすることを控えてきた。しかし、最近になってリビアの政情について声明を発表し（「イスラーム的マグリブのアル=カーイダがリビア情勢について声明を発表」『中東かわら版』2014年6月2日 No.39）、そして今般、チュニジアでの襲撃事件の犯行声明を発表したのである。これは、同派が今や「アラブの春」によって発足した新体制も従来の諸政府同様の敵対者と判断し、各国の政情不安や治安の弛緩に乗じて作戦行動や扇動を強化する方針に転じたことを示唆している。

（イスラーム過激派モニター班）

◎本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 公益財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799